

平成30年9月19日

那須烏山市議会議長 沼田 邦彦 様

文教福祉常任委員会委員長 滝口 貴史

決算審査結果報告書

本委員会に平成30年9月10日に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定したので、那須烏山市議会会議規則（平成17年10月那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により報告します。

1 審査期日

平成30年9月11日（火）及び12日（水）

2 審査場所

那須烏山市役所 南那須庁舎 第二委員会室

3 出席委員

滝口貴史、青木敏久、福田長弘、相馬正典、田島信二、久保居光一郎

4 説明のための出席者

市民課長 佐藤加代子、福祉事務所長兼健康福祉課長 稲葉節子、こども課長 神野久志、学校教育課長 岩附利克、生涯学習課長 柳田啓之、文化振興課長 糸井美智子、他関係職員

5 審査事項

本委員会の所管する市民課、健康福祉課、こども課、学校教育課、生涯学習課、文化振興課の平成29年度那須烏山市の一般会計及び特別会計歳入歳出決算

6 審査結果

本委員会が付託を受けた一般会計及び特別会計の決算については、全会一致で原案のとおり認定すべきものと決定いたしました。ただし、次のことについて要望し、意見を付することとします。

本委員会の所管する各課横断的なもの

- ・幅広い業務に取り組む職員の努力を評価する。一方、市の財政状況や職員数に鑑みる

と、実施事業が多く、選択と集中を図る時期に来ていると考えられる。各事業の検証を行い、マンネリ化した事業等については思い切った決断をされたい。

市民課

- ・熊田診療所については、改善努力が見られるものの、依然として一般会計からの繰入金に依存している体制であることは否めない。利用者や地域住民の声を真に受け止め、地域に根ざした診療所となるよう一層精進されたい。

健康福祉課

- ・80代の親とひきこもる50代の子を意味する8050問題が深刻化しており、高齢の親亡き後、子供が生活保護に移行するケースの増加が懸念される。要援護世帯等の実態を把握し、早い段階での介入や就労支援等の対策を講じられたい。
- ・健康診査は病気の早期発見・早期治療のために重要な事業である。がん検診の自己負担が増額となったが、受診者が減少しないよう普及啓発に努められたい。

こども課

- ・財政状況及び園児数の推移から、七合保育園の統廃合はやむを得ない。公共施設等総合管理計画において、他の保育園や幼稚園の統廃合も検討していることを踏まえ、保護者及び地域住民には丁寧な説明を行い、特に保護者に対しては早期の情報提供を含めた十分な配慮をされたい。
- ・放課後児童健全育成事業について、過去3年度分の子育て総合支援事業費補助金を返納している。担当する業務に対し十分な知識を習得し、適正な事務執行に努められたい。

学校教育課

- ・姉妹都市であるメノモニー市への中学生派遣が、平成29年度で20回目の実施となった。中学生が国際的な視野の拡大を図る貴重な機会であるが、相互交流を期待するものの、メノモニー市から本市への来訪がないことや、メノモニー市側の受け入れに係る負担を考慮し、本事業の見直しを検討されたい。また、平成30年度より中学生の広島平和記念式典派遣事業が、総務課から学校教育課に移管されたが、本事業についても、実施目的や意義を熟考し、派遣先や人数等の見直しを検討されたい。

生涯学習課

- ・なすから英語塾について、地方創生推進交付金が平成30年度をもって終了することを機に、事業の見直しを検討されたい。

文化振興課

- ・ジオパーク構想については、ゼロベースでの見直しを検討されたい。日本ジオパークネットワークの正会員になることありきでなく、まずは貴重な地域資源を子供たちの教育に活用し、郷土を愛する心の醸成を図れるよう取り組まれたい。